

# 標十五句

松岡隆子選

探梅の道途中まで知つてをり  
漱石忌水に流せばよいものを  
諳んじて昭和の御代の手毬唄  
初電車待つ間の富士を拝しけり  
家の灯を一つふやして寒に耐ふ  
白鳥の浮寝の影を流すかな  
滝口の水重なつて凍てにけり  
龍の玉神の宿りし瑠璃ならむ  
鍬ぞめや寸地をまもり夫傘寿  
もの芽や先へ先へと欲少し  
ゆつくりと暮れて猪の年猪の日かな  
筆頭は九十二齡初旬會  
オリオンの煌めきさはに大霜夜  
へだてなき路地の生活や松立てて  
水の綺羅白鳥黒くしてしまふ

別府 優  
川上 昌子  
松原 ふみ子  
下平 直子  
染谷 晴子  
佐藤 郭子  
白井 清春  
峰岸 よし子  
神谷 フジ子  
中里 時子  
東條 恭子  
早川 紀子  
植草 京子  
田中 敦子  
珍田 千代子